

国 平成三十年度 入学試験問題

平成三十年二月一日午後実施

東京女学館中学校

国語 解答用紙
(字数制限のある場合、句読点・カッコなどはすべて字数に数えます。)

問一 A ウ B ア C イ D エ

問二 何が話ししかく感_二つていたから。 問三 ウ

問四 友だちができたこと

問五 父 慎重 母 こわがり

問六 I 学校 II 悪いところじゃあない 問七 ア

問八 母が心配し、変装してこっさりあ
とをつけてくること。

問九 エ 問十 イ 問十一 ウ 問十二 とにし_二た。

問一 予感 問二(1) 視線の交感 (2) 生まれく_二な孤独

問三 わたし_二るもの 問四 ハンタ_二ること 問五 鹿は自分の

問六 岡井さんの声 問七 ウ 問八(1) あきらめ

(2) じつと立_二つていた
 すんなり立_二つて(村の方を見ていた)

問九 詩人はふつうの_二人より_一も鋭い_一予感_二の能力
を_二持つて_一いるため、生き物の_二の生_一はかなさ、
死の必然を、いた_二つそ_一う敏感に感じるとる_二こと。

問十 イ 問十一 ア

三		
9	5	1
快い	誠実	郵送
10	6	2
改革	晩年	蒸発
	7	3
	養う	説得
	8	4
	判定	採集

評点

受験番号

氏名